

教 諭 横山 直子
外国語指導助手 クレイグ・ネビット
アビィ・レアング

1. 期 日 9月9日(木)
2. 時 間 3限 「英語表現」
3. 対 象 2年10組(国際コミュニケーションコース) 20名
4. 内 容 スピーチ活動
5. 単元設定の意図

(1)教材観

「英語表現」においては、ディスカッション、エッセイライティング、ピアレビュー、スピーチといった活動を中心に、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけること、聞き手や読み手にわかりやすい表現の仕方を身につけること、特に、日本人の苦手な「自分の意見を持ち、相手に伝えようとする」態度を育てることを目標としている。

本時を含め、4時間で、生徒は夏休みに各自がテーマを決めて原稿を書いてきたものを発表する。話し手は相手に伝えたい内容を吟味し、わかりやすい構成で文章をまとめ、アイコンタクト、ジェスチャー、声の大きさ、表情、などにも注意を払いながら、発音、文法など正確な表現を行うことを目標とする。また、聞き手は、発表の内容について概要を把握し、それに対する自己の考えを整理し、質問や感想を述べるなどの応答ができるようになることを目標とする。

スピーチは、このような、基本的なコミュニケーション能力の育成に適した活動であると考えられる。

(2)生徒観

英語のコミュニケーション活動に対する関心は高く、課題に対しては地道に取り組む。しかし、積極的に英語で発言する自信はなかなか持てない。クラス内での学力差が見受けられるが、41名中、9名が、実用英語技能検定の準2級まで、22名が2級を取得している。1年次3月に40名がカナダへの語学研修旅行に参加し、英語学習への意欲がますます高まった。なお、本時は20名と留学生1名の少人数で展開される。

(3)指導観

1,2年次を通じて、一貫して、「相手に伝えようとする態度」「相手を理解しようとする態度」の大切さを第一に指導してきた。そのために、間違いを恐れず積極的に英語で表現することを教師自身が心がけ、生徒に対しても、英語で積極的に自分の考え等を表現することを促していきたい。また、相手の発言に対して、「自分はそのテーマについてどのように考えるのか」を常に自問し、自分なりの意見や質問を発表するという姿勢を育てたいと考えている。

また、文法・語彙・発音など、正確な表現を学習することと、コミュニケーション活動を中心とした学習のどちらかに偏るのではなく、バランスを保つことが必要であることを指導していきたい。

スピーチは、同様のもの(テーマは自由で、夏休み中に原稿を書き上げ、クラス内で発表)を1年次の9月にも実施し、生徒同士の相互評価で選ばれた優秀者4名が校内のスピーチコンテストに出場した。今回もテーマは自由であるが、1学期までに行ってきたエッセイライティング等を通して、文章構成をどのようにするか、いかに聞き手に分かりやすい説明をするか、などを熟考して原稿を書くことを指導してきた。生徒も単なる英語の表現の仕方だけでなく、内容そのものについて助言を求める者が増えてきており、今後も、さらに、内容・構成に注意を払い、英語で表現していく力をつけるよう指導していきたい。

6. 学習指導計画

既習の活動

1年次	(OJ)	教科書(<i>Departure Oral Communication I</i> 大修館)を用いてのペアワーク等の活動・語彙・リスニング(ディクテーションなど)・エッセイライティング(200語～300語・毎週提出)・レシテーション・スピーチコンテスト・Show & Tell・サマリー・グループディスカッション・カナダプロジェクト(カナダについてグループで発表)・日本紹介の冊子作製・リーディング・小グループ内での即興スピーチ等
2年次	(英表)	リーディング・グループディスカッション・エッセイライティング(300～400語)・ピアリヴィジョン・クラスでの即興スピーチ・リスニング・スピーチ等 (1学期まで)

1年次の「オーラル・コミュニケーションI」で学習した内容をもとに、2年次の「英語表現」では、自分の考えなどを表現する能力をさらに一層伸ばすことをねらいとしている。また、3年次の「コミュニケーション」では、1,2年次で学習した内容をもとに、ディベートを中心に、論理的に思考し、情報や自分の考えを正確に伝える力をつけることを目標としている。

7. 本時案

(1)ねらい

- アイコンタクト、ジェスチャー、声の大きさ、表情、などに注意を払いながら発表することができる。
- 発音、文法など、正確に表現することができる。
- 聞いた内容について概要や要点を把握することができる。
- 聞いた内容に対する自己の考えを整理し、質問や感想を述べるなどの応答ができる。

(2)準備

マイク、評価シート

(3)学習過程

学習内容・学習活動	生徒の活動	教師の支援・評価等
導入 5分	・話し手、聞き手として心がけるべき事を確認する。 (評価シートの確認)	・話し手、聞き手として心がけるべき事は何か質問し、理解を確かめる。 ・評価シートの内容を確認する。
スピーチ 35分	・一人ずつマイクを使って発表する。 ・聞き手はメモを取りながらスピーチを相互評価する。 ・聞き手は発表内容に関して質問を行い、話し手はそれに答える。	・スピーチ評価シートに従ってスピーチの評価を行う。 ・聞き手の質問を促す。 ・聞き手が、優れた質問・感想を述べた場合は記録する。
まとめ 10分	・本時の活動を振り返る。	・総評を述べ、生徒の優れた点や改善できる点を指摘する。 ・話し手、聞き手として心がけるべき事を再度確認する。 ・課題の確認(peer revision のコメントシート記入)

8. 資料

スピーチ評価シート

Speech Evaluation Topic _____

Contents	1	2	3	4
Speech organization / structure	1	2	3	4
Correctness (grammar, vocabulary, etc.)	1	2	3	4
Confidence/posture	1	2	3	

Speaker _____

Evaluator _____